

第44回全国老人クラブ大会第1部会 支え合う地域づくり H.27.10.28 静岡市

認知症理解に地域ぐるみで取り組む

兵庫県加西市老人クラブ連合会会長 吉田 廣

クラブ数 134 会員数 11,718人 (男性 5,247人 女性 6,471人) (約69.9%)

1. 兵庫県加西市

兵庫県加西市は、昭和42年4月1日に県下21番目めの市として発足し、県のほぼ中央に位置し、自然豊かな人口45,426人の田園都市です。65歳以上の高齢者の人口は、13,619人(29.9%)で、国、県の高齢化率を上回っています。将来の人口推計においても上昇を続け、平成37年には高齢化率は35.8%と予測されています。

2. 超高齢化社会へと進む日本

総務省が9月20日に発表した人口推計によると、65歳以上の日本の高齢者は前年に比べて89万増の3384万人でした。65歳以上の高齢者が総人口に占める割合は0.8ポイント増の26.7%で、人口、割合ともに過去最高を更新しました。

65歳以上の割合は、国立社会保障・人口問題研究所の推計で2040年に36.1%に達する見込みです。社会保障費の膨脹への対応が急務となっており、社会保障費の抑制、医療費の負担増、加えて年金の減額、消費税上乘せ等も予測され、今後、高齢者の生活は厳しい状況が考えられ、老人クラブの果たすべき役割は大きくなっていきます。

3. 高齢者に占める認知症の人口

現在65歳以上の高齢者のうち認知症の人は推計15%で、462万人とされています。この数は兵庫県の人口の約83%にあたり、今後も増加が予測されます。

加西市の現状は、65歳以上の高齢者の18.1%の2,471人が要介護認定者。そのうち認知症状と推定される高齢者は1,484人(10.8%)です。

4. 認知症高齢者を見守り・支える老人クラブ

認知症高齢者の多くは家族が介護し、その負担は大きいものがあります。家族だけではなかなか守りきれない認知症高齢者を見守るとともに、介護する家族を支える地域づくりが必要です。

(1) 認知症高齢者に係る課題

- ① 長期的に進行するため初期症状がつかめつかめにくく、外部の人が認知症ではないかと疑っても家族に言いにくい。また、認知症ではないかと医師から診断を言われた時、家族のショックと不安は大きい。認知症の医療連携体制や相談体制を構築し、早期発見・早期治療が求められる。地域の支えで症状も可能となる。
- ② 市関係課、地域包括センター、施設等の知識や理解が少なく対応に苦慮する。認知症高齢者に対する各種講座や模擬訓練等を通じた理解の促進が必要だ。
- ③ 家族は、認知症と認めたくない、知らせたくない思いが強く内向きとなり、孤立化しやすい。家族への関わり方、地域への啓発普及が大切である。
- ④ 共に暮らす家族が身の回りの世話、通院、入院、徘徊等で苦勞が多い。また、通院、入院、介護に係る費用がかさみ、調達の心配もある。
- ⑤ デイサービス、通院、入院へ付き添いが必要となる。症状が重度化、長期化で、家族は心身とも疲れる。女性への負担がより大きくなる傾向がある。
- ⑥ 高齢の夫婦や親子間の介護、看病疲れが殺人につながるケースは後を絶たない。
- ⑦ 介護している方達の心のケアをしてあげることが大切だ。話を聞いてくれる人、場所を増やすことが必要である。介護者が元気であることが何よりである。
- ⑧ 徘徊などで行方不明になった人は年間およそ1万人といわれている。その時、家族の心配は測りしれない。初期探索ネットと見守り体制の充実が必要である。

認知症高齢者、その家族にとっても気兼ねなく暮らせる地域づくりを担う中心的な存在は、地域に根ざす活動を展開する老人クラブです。

(2) 高齢者アンケートからみる要望等

(加西市 高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画 2015)

- ① 生活の心配については、「病気になること」「寝たきりになること」「認知症になること」が上位である。仲間とともに健康活動と介護予防活動を行う。
- ② 日常生活については、一人での外出や日用品等の買物等について、できない高齢者、要介護者の1～2割がいる。個々の実情に対応する生活支援が必要である。
- ③ 利用したいサービスについては、高齢者は「介護予防に関する健康相談」や「ふれあい交流事業」等のニーズが高い。交流サロンの拡充が求められる。
- ④ 介護サービスに関する情報は、病院や家族などが多く、市役所や民生委員からは1割に満たない。老人クラブでの一層の発信・相談や助言機能の強化がいる。
- ⑤ 主たる家族介護者については、65歳以上の介護者の割合が40.6%である。3年以上の長期介護は4割に達しており、介護者の支えがより求められる。
- ⑥ 在宅生活に必要なことは、住み慣れた地域に合うデイサービスとショート・ステイなどを組み合わせながら過ごすことのできる環境づくりを求めている
訪問介護や通所介護など在宅介護の充実が必要である。(市町村移行)
- ⑦ 多くの人が施設の必要性を認めている。施設内容については、在宅で生活ができる小規模多機能型居宅介護が多い。行政当局への強い働きかけが必要である。
- ⑧ 取り組むべき施策については、高齢者は「身近で受けることのできる福祉や介護サービスの充実」「わかりやすく利用しやすい相談窓口」が多くなっている。
老人クラブで取り組むこと、行政にお願いすることを区別し取り組む。

5. 老人クラブが健康づくり・介護予防・生活支援の担い手に

高齢者は、介護や介護予防といった課題とともに人間関係の希薄化や「社会的孤立」から生じる様々な福祉・生活課題をかかえています。

人生90年、高齢者が高齢期を楽しく、生きがいをもって、住み慣れた地域で暮らしていくためには、自治体はもとより、地域団体や住民参加による支え合いの体制をつくる必要があります。

(1) 加西市老人クラブ連合会の活動方針とスローガン

◎ スローガン 『健康寿命を伸ばし 地域の担い手になろう』

- ① 健康寿命を伸ばし、自身が元気な高齢者となり豊かな高齢期を過ごす
- ② 元気な高齢者が助け合い精神で仲間を支える、地域を担う

ア. 健康・暮らし・生きがいを踏まえた後期人生設計
イ. 自立意識をもち、身辺自立のできる元気な高齢者
ウ. 共に助け合う、共に支え合う精神で地域貢献

(2) 地域で支え合う体制づくりへの取組み

① 加西市・市議会への提言と協議事項

ア. 健康づくり・介護予防へ老人クラブへ支援の強化
イ. 高齢者が安心して暮らせる地域包括ケアシステムの充実強化
ウ. 「新地域支援事業」の充実に向けての連携体制づくり
エ. 元気な高齢者が活躍できる場の確保と拡充、関係機関、団体との連携支援

【介護に関して利用できる制度・サービス】

- ア. 自立して生活できる — 健康活動・介護予防活動
高齡者福祉サービス（いきがい支援、生活支援）
民間支援サービス
- イ. 介護が必要か？ — 地域包括センター（認知症の総合窓口・相談）
- ウ. 介護認定（介護保険） — 在宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス

【新地域支援事業】

- ア. 介護予防・生活支援サービス事業（要支援者が対象）
イ. 一般介護予防事業（全ての高齢者が対象）

② 加西市老人クラブの組織・事業の強化充実

- ア. 副会長に元市民病院看護部長が就任するなど加西市老連の本部機能の強化
- イ. 実態や経験に即した会員の声を加西市や議会に行動提案、関係部署等との連携
- ウ. 兼職は要介護者を抱える役員や女性等適任者を介護関係を含む各種委員に推薦
- エ. 会員の多種多様な知識・能力・技術・経験を生かすサポート制度の創設
- オ. 活動の充実を目指し「魅力ある老人クラブづくり検討委員会」設置
- カ. 介護保険制度や認知症理解のための研修の充実と助言や相談できる人材の育成
- キ. 健康寿命を伸ばすための活動の奨励・促進、特定健診受診率向上への取組み
- ク. 癒しと安らぎの拠点（サロン活動）の拡充、会員の健康づくりの動向調査
- ケ. 情報提供強化と啓発のため広報誌の内容の刷新、読みやすい紙面構成

③ 支え合う地域づくりに向けて具体的な活動

- ア. 健康寿命を伸ばし元気な高齢者になる活動
 - 健康、介護予防活動 — 健康ウォーキング、体力測定、介護予防教室
- イ. 仲間を支える活動
 - 生活支援活動 ————— 1人暮らしの訪問（給付）、百歳訪問、長寿賞設置
安否確認、見守り活動、お知らせ届け等情報提供
声掛け、話し相手、相談活動、詐欺被害防止
- ウ. 豊かで 住みよい 地域づくりを進める活動
 - 社会貢献活動 ————— 花いっぱい活動（審査・表彰 年2回）
子供見守り活動（ワッシー・スクール）
交流サロン、サークル活動
スポーツ（グランドゴルフ、ゲートボール他）
文化活動（文化展の開催）、施設訪問、募金活動
 - 自治会との連携 ————— お宮の清掃、伝統行事の伝承活動、墓地の管理
民生委員との連携

エ. 社会福祉協議会

(地域包括センター、介護支援センター、ボランティアセンター)

○社会福祉事業、相談活動、移送サービス、訪問看護事業、介護リーダー研修

オ. 警察・消防

○ SOSネットワーク構築 (緊急時の対応)

交通安全 詐欺被害防止 防犯 緊急時対応

カ. 病院

○ 地域リハビリステーションの促進 訪問看護活動

キ. シルバー人材センター活動

○ 生活支援 (調理 清掃 軽作業等)

ク. 施設

○ 芸能大会招待 施設ボランティア (配膳等軽労働有償ボランティア検討)

6 住み慣れた地域で暮し続けていけるために

加西市老人クラブ連合会は、「健康」「友愛」「奉仕」を軸に、高齢者の生きがいがづくり、健康づくり、仲間づくり、地域づくりをめざし多様で多彩な活動に取り組んでいます。

高齢者が安心して暮らせる社会にするためには、高齢者相互が支え合い、地域の人々との連携・協力が必要です。高齢者は、「できる限り自分の家で住み続けたい」との思いをもっています。それを実現していくためには、老人クラブがリーダーシップをとり、市町村、自治会、社会福祉協議会、関係団体、NPO、警察、消防などと連携を図り、住民参加による体制づくりが不可欠です。その際、「新地域支援事業」の実施に向けて、支え合うとは何か、加西市老連としてできること、できないことを見分け、行政や住民・関係者と協働し、より質の高いサービスや多様なサービスを提供できるよう努力いたします。

加西市老人クラブ連合会は、「新地域支援事業」の担い手として、会員の生活の安定と福祉の向上に資する活動を積極的に展開し、高齢者だけでなく、子どもや障がいのある人全ての世代にとっての「福祉のまちづく」の実現に向けて、その役割を着実に果していきたいと思います。

—— 認知症高齢者にやさしい地域づくりの実現 ——

- 加西市
- 「新地域支援事業」に向けて連携体制づくり
 - 支援・相談機能の強化と充実
 - 元気な高齢者が活躍できる場の確保と拡充

